

我が国の国際競技力向上施策について

競技スポーツ課

令和元年10月4日



スポーツ庁

オリンピック・パラリンピック競技大会等に向けた国際競技力の向上

オリンピック・パラリンピック競技大会をはじめとする国際競技大会における我が国のトップレベル競技者の活躍は、国民に夢や感動を与え、明るく活力ある社会の形成に寄与。このため、世界で活躍できる競技者の育成・強化を積極的に推進。

トップアスリートの強化活動の支援

(前年度予算額:10,047百万円)
令和2年度概算要求額:11,000百万円

競技力向上事業

- ・各競技団体が行う日常的・継続的な強化活動を支援
- ・2024年パリ大会等で活躍が期待される次世代アスリート発掘への発掘・育成の支援等

(前年度予算額:1,264百万円)
令和2年度概算要求額:1,800百万円

ハイパフォーマンス・サポート事業

- ・メダル獲得可能性が高い競技を対象に、スポーツ医・科学、情報による専門的かつ高度な支援を戦略的・包括的に実施

我が国のトップアスリートの活躍



Photo by AFLO SPORT (JOC提供) Photo by 有限会社エックスワン (JPC提供)

競技者を多方面から支援



Photo by 有限会社エックスワン (JPC提供)



Photo by JOC (JOC提供)

支援

支援

トップアスリートのための強化・研究活動等の拠点構築

(独)日本スポーツ振興センター
ハイパフォーマンススポーツセンター

国立スポーツ科学センター(JISS)



- ・ハイパフォーマンススポーツにおける医・科学研究・支援、情報収集・提供及びスポーツ診療などを実施

ナショナルトレーニングセンター(NTC)



- ・トップレベル競技者等が集中的・継続的に強化活動を行う拠点
- ・オリンピック競技とパラリンピック競技の一体的な拠点構築に向け、拡充整備を実施(2019年6月末完成)

連携

(前年度予算額:962,百万円)
令和2年度概算要求額:964,百万円

NTC競技別強化拠点

- ・冬季、海洋・水辺系、屋外系競技などの強化拠点について、既存のスポーツ施設を競技別のNTCに指定
- ・指定施設においては、ハイパフォーマンススポーツセンター及び近隣の関係機関・施設との連携によるNTC機能の強化を実施

(前年度予算額:780百万円)
令和2年度概算要求額:780百万円

ハイパフォーマンススポーツセンターの基盤整備

- ・ハイパフォーマンスに関する情報収集・分析や競技用具の開発等に係る機能強化を図るとともに、関係機関間の連携を促すプラットフォームを整備

J-STARプロジェクト 3期生（2019-2020年）の概要

概要

第2期スポーツ基本計画及び「競技力強化のための今後の支援方針（鈴木プラン）」では、アスリートの発掘が重要な課題として位置付けられた。このことを踏まえ、平成29年度、日本スポーツ協会は、全国の将来性豊かなアスリートを発掘するためのプロジェクト「ジャパン・ライジング・スター・プロジェクト」を開始した。

日本スポーツ協会は、JSC、JOC、JPCなどの関係団体と連携して全国各地で発掘プログラムを展開し、競技毎に拠点となる都道府県（拠点県）にて、世界レベルの指導者とともに合宿形式でのトレーニング等を行うなど、本事業を通じて、オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて有望なアスリートを選抜し、競技団体の強化育成コースに導いていく。

対象者

オリ競技 中学生・高校生年代

パラ競技 中学生年代～

対象競技

オリ競技（5） 水泳（飛込）、ボート、ウエイトリフティング、ハンドボール（女子）、7人制ラグビー（女子）

パラ競技（6） 陸上競技（身体障がい）、ボッチャ、パワーリフティング、水泳（身体障がい）、車いすフェンシング、アイスホッケー

スケジュール

R1.6.17～8.19 参加希望者による応募（インターネット）
⇒ <https://www.j-star.info/>

R1.9～11月 全国11か所で体力測定会
（オリ：7会場 パラ：4会場）
※適性に応じた競技の選定

R1.12月～R2.10月頃 検証プログラム（合宿・トレーニング等）
※最終的な適性見極め

J-STARプロジェクト 1期生（2017-2018年）の成果

中央競技団体の育成・強化システムへ

13名

輩出

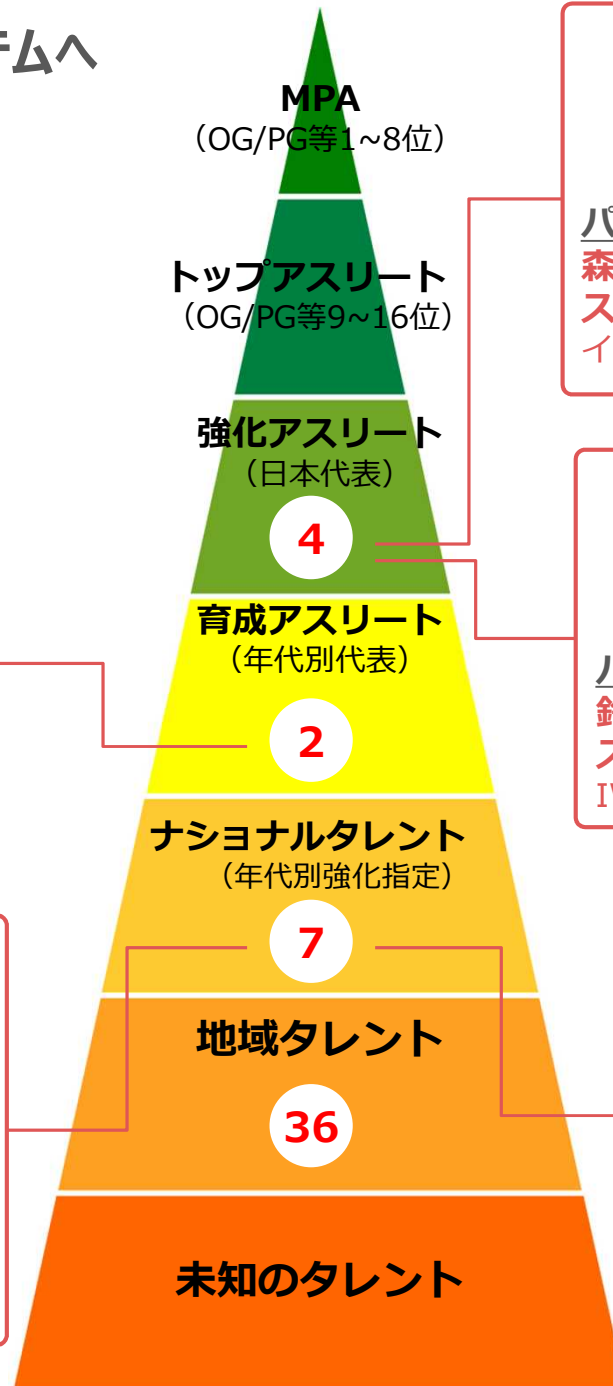


オリンピック競技 ハンドボール
吉野珊瑚（愛知県）
スポーツ歴：ソフトボール
U16日本代表選手に選出

JSCが連携する地域タレント発掘・育成事業から参加



オリンピック競技 7人制ラグビー
上田芽生（愛媛県）愛媛県TID事業出身
スポーツ歴：バスケットボール
2018年度女子セブンスユースアカデミーに選出



パラリンピック競技 パワーリフティング
森崎可林（滋賀県）
スポーツ歴：水泳
インドネシア 2018 アジアパラ競技大会 出場



パラリンピック競技 車いすフェンシング
鈴木誠（東京都）
スポーツ歴：剣道
IWAS車いすフェンシングワールドカップ出場



パラリンピック競技 水泳
岡島貴太（愛知県）
スポーツ歴：水泳
2018年度育成A指定選手（候補）に選出

児童生徒のオリンピック・パラリンピック競技大会等への参加に係る 学校における出席扱いについて（通知）

2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催が決まっている中、学校に在籍するトップアスリートが、学校教育への影響等に適切な配慮がなされた上で、強化合宿等に参加しやすくすることは重要

- 児童生徒のオリ・パラ大会及び強化合宿等への参加について、児童生徒の心身の発育・発達、学校教育への影響に配慮しつつ、参加を認めること
- この場合、校長は、学校教育活動の一環として参加させることができ、「出席」扱いとすることが適当であること
- 学校においては、保護者や各競技団体と連携して、児童生徒の参加状況を把握すること

について、文部科学省から、スポーツ庁次長及び初等中等教育局長の連名で、各都道府県教育委員会等宛てに、通知を发出（平成27年10月30日）

→ 各都道府県においては、上記通知の趣旨が市町村教育委員会、学校等にしっかり伝わるよう、適切に周知をお願いしたい。

※オリ・パラ以外の競技についても、部活動において実施されているか否かにかかわらず、指導要録上、平成22年5月の通知に従い、「学校の教育活動の一環として生徒が運動や文化などにかかわる行事等に参加したものと校長が認める場合には」、出席扱いとすることができる。平成27年10月の通知は、校長が、出席扱いを認める場合の考え方を具体的に示したもの。当該通知に関する留意事項については、平成29年4月3日付け事務連絡も参照。

（参考）平成27年10月30日付通知、平成29年4月3日付事務連絡：

http://www.mext.go.jp/sports/b_menu/shingi/018_index/shiryo/attach/_icsFiles/afieldfile/2017/10/30/1397208_002.pdf

不適切な鉄剤の静脈内注射の防止について①

30ス競ス第18号
平成31年1月11日

各都道府県・指定都市教育委員会体育主管課長
各都道府県・指定都市スポーツ主管課長
各都道府県私立学校事務主管課長
小中高等学校を設置する学校設置会社を所轄
する構造改革特別区域法第12条第1項の認定
を受けた各地方公共団体の学校設置会社担当課長
各国公私立大学担当課長
附属学校を置く各国公立大学法人担当課長
各国公私立高等専門学校担当課長
各スポーツ関係団体の長

殿

スポーツ庁競技スポーツ課長
靱井圭子
(印影印刷)

スポーツ庁政策課長
鈴木敏之
(印影印刷)

スポーツ庁参事官(地域振興担当)
増井国光
(印影印刷)

不適切な鉄剤の静脈内注射の防止について(依頼)

スポーツの実施にあたっては、スポーツを行う者の心身の健康の保持増進及び安全の確保が図られることが重要です。

しかしながら、今般、一部の競技において、本来であれば鉄欠乏性貧血が重症かつ緊急の場合など、経口による鉄剤の投与が困難又は不適當である場合に限って使用されるべき鉄剤の静脈内注射について、不適切な利用の実態があることが確認されました。

鉄剤の静脈内注射は、鉄分の過剰摂取につながりやすく、鉄が肝臓、心臓、すい臓、甲状腺、内分泌臓器及び中枢神経などに沈着し、機能障害を引き起こしたり、ヘモグロビンをつくる能力の低下を招いたりする恐れがあります。また、鉄剤の静脈内注射は経口による鉄剤の投与が困難又は不適當である場合に限って使用されるべきものとされています。

したがって、鉄剤の静脈内注射が選手の健康を害する危険性を理解した上で、疲れやすく競技のパフォーマンスが低下しているなどの競技者からの訴え等に対して、指導者等は安易に鉄剤の静脈内注射の使用を医師に求めることなく、医師の診断に従い、適切に治療を受けるよう促すことが必要です。

鉄欠乏性貧血は、食事において鉄分をはじめとする必要な栄養をしっかりとるとともに、休養やトレーニング強度・量に配慮することで予防することができます。特に成長期の競技者については、骨や筋肉の発育・発達のために鉄分が消費されることから、鉄欠乏状態になりやすいことに留意が必要です。

については、地方公共団体又は学校設置者におかれては所管又は所轄の学校及び関係機関等に対して、都道府県におかれては域内の市区町村に対して、このことについて周知くださるようお願いいたします。

また、スポーツ団体については、統括団体におかれては加盟団体に対して、中央競技団体におかれては年齢・学校種・地域等の別に応じた組織されている関係団体に対して、このことを通知の上、指導者等への周知啓発に御協力くださるようお願いいたします。

なお、本件に関して、公益社団法人日本医師会から各都道府県医師会に対して、別紙1のとおり周知がされています。

不適切な鉄剤の静脈内注射の防止について②

【参考資料】

(貧血予防等に関する参考資料)

1. 公益財団法人日本陸上競技連盟「アスリートの貧血対処7か条」(別紙2として添付)
(<https://www.jaaf.or.jp/medical/anemia7.html>)

(スポーツと栄養に関する参考資料)

2. 文部科学省「食に関する指導の手引-第1次改訂版-」(第6章6.(4)スポーツをする児童生徒)
(http://www.mext.go.jp/a_menu/sports/syokuiku/1292952.htm)

3. 国立スポーツ科学センターウェブサイト「スポーツ栄養」
(<https://www.jpnsport.go.jp/jiss/nutrition/tabid/1183/Default.aspx>)

4. 公益財団法人日本陸上競技連盟「アスリートのエネルギー不足予防10か条」
(<https://www.jaaf.or.jp/news/article/12119/>)

(ジュニア期のスポーツ全般に関する参考資料)

4. 公益財団法人日本スポーツ協会「ジュニア期のスポーツライフマネジメント」
(<https://www.japan-sports.or.jp/publish/tabid776.html#guide03>)

(女性アスリートの健康等に関する参考資料)

5. 国立スポーツ科学センター「成長期女性アスリート指導者のためのハンドブック」(文部科学省委託事業)
(<https://www.jpnsport.go.jp/jiss/gaiyou/jigyoku/houkoku/nenpo/tabid/1112/Default.aspx>)

6. 東京大学医学部附属病院「Health Management for Female Athletes Ver.3 -女性アスリートのための月経対策ハンドブック-」(スポーツ庁委託事業)
(<http://femaleathletes.jp/book/HMFA3/>)

※日本陸上競技連盟は、昨今、特に中学生や高校生の中・長距離走を専門とする競技者に鉄剤注射が安易に行われている事実が明らかとなったこと等により、この事態を重く捉え、2019年5月に「不適切な鉄剤注射の防止に関するガイドライン」を策定、公表した。

「不適切な鉄剤注射の防止に関するガイドライン」
https://www.jaaf.or.jp/files/upload/201905/%E3%82%AC%E3%82%A4%E3%83%89%E3%83%A9%E3%82%A4%E3%83%B3_%E3%83%91%E3%83%B3%E3%83%95%E3%83%AC%E3%83%83%E3%83%882019.pdf
(日本陸上競技連盟HP)